

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げているのみならず、嵯峨野センターの理念も独自に掲げている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で唱和し、理念の共有・実践に取り組んでいる	○	理念に向けて、現状の情報交換は常に行っているが、理念に向けての具体的な実践事項を考えていく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	日々の家族の面会時にセンターの理念を伝えたり、施設内の見える所に理念を貼り、家族や見学者の方が理解してもらえるよう努めている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設周辺で近隣の方と出会った時の挨拶はもちろん、自治会への参加も可能な限り行っている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の参加、役員も担い、老人会にも参加している		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で地域の声を伺い、日々、職員間で話し合いをしている</p>	○	<p>地域の高齢者の暮らしに何が必要かさらに知る努力を努め、話し合いしていく</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員が自己評価票を記入する事で、実施する意義を各職員が熟知し、自己を振り返る機会となっている</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、センターの様々な取り組みや現状の報告をし、意見を聞いている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域ケア会議への積極的な参加など、市町村との連携に努めている</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の中には成年後見制度を利用しておられる方もおり、一般的な知識を有している職員は多い</p>	○	<p>制度の理解度が職員の中でも差があり、さらに制度を理解するための研修の参加や全体会議などでの勉強会を設けていきたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の徹底は、センター内で常に話し合い、虐待が行われていないか細心の注意を払っている</p>		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分に理解した職員が対応し、利用者や家族との十分な話し合いを経て、理解をいただいている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日ごろの思いを、職員と利用者が、気軽に常日頃話せる関係にあり、職員はその意見を真摯に受け止め、サービスの向上に努めている	○	センター外部者へ表せる機会の設置が必要
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶり・健康状態は常に注意を払い、面会時又電話連絡時に随時報告・相談をしている	○	職員の異動は、面会に来られた家族に報告しているにとどまっている。センター発行の新聞に記載する等、全家族に伝える工夫をしていく
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて意見を伺ったり、日々の面会時等でも、様々な意見を出していただけるような関係作りに努めている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センターの全体会議で意見交換をしたり、日々のコミュニケーションの中で意見を出し合っている	○	意見を反映させる具体的策や方法を考慮する必要がある
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じ、話し合いの場を設け、それに伴う職員の勤務調整を行っている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限にするため、会議や面談を随時行っている。又職員は各ユニットごとではなく、センター全体の利用者や馴染みの関係づくりに努めるよう日々努力している		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内を随時回覧し、又職員に応じて特に学んでほしい研修内容であれば、個別に案内し、可能であれば勤務時間内での受講の調整も行っている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設の職員と交流のある研修の参加も行い、双方の情報交換などに努めている</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に数回、ボーリング大会や慰安会など、催しを行っている</p>	<p>○ 現場の現状や実際の職員のストレスを調査・相談する場を設けていく必要がある</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員は向上心を持って従事するよう努力しているが、運営者が、個人の努力を把握するシステムが整っていない</p>	<p>○ 運営者と職員が意見交換する機会を増やしていく。運営者が現場を視察する頻度を上げる</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>十分な話し合いの場と時間を設け、本人の不安を取り除く努力を行っている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人様と同様、十分な話し合いの場と時間を設け、不安解消・ニーズの理解に努めている</p>	

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は真摯に受け止め、可能な限り話し合いに時間を作り対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自由に随時見学していただき、センターに馴染めるように努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者様に対し尊敬の気持ちを持って接する事を基本としており、学び、支えあう関係作りに努めている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様とともに、利用者様を支えていく事を前提に常に家族様と話し合い、相談・意見の交換を行っている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族から十分に話を聞き、相互の関係の理解に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の投函の代行や、馴染みの人の自由な面会など、友好関係が途切れない努力をしている	○	馴染みの人の面会だけでなく、利用者が馴染みの人を訪問する機会を作っていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は常に細心の注意を払い、観察・把握して、利用者様がよりよい生活を送れるよう努めている		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された利用者様のご家族が定期的に演奏会を開催して下さったり、手紙の交換を行ったり、よりよい関係を継続している家族もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人から伺ったり、日々の生活を観察しながら思いや希望を察する努力をしている。定期的に個人別にカンファレンスを行い、職員間での情報共有や本人の意向の把握をしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を集めるとともに、その情報を書きためる個人ノートを作成し、職員がいつでも閲覧・追記できるようにしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に職員間で連携をとり、利用者様の小さな変化にも気付ける努力をしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っており、家族・本人の要望も取り入れた介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行うのはもちろん、本人に変化が生じた時は随時カンファレンスを行い、その時に応じたケアの提供に努めている		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や日々の様子を時間ごとに介護支援記録用紙に記載している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	様々な要望にセンターが対応できる事を日々職員間や本人と話し合い、支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	センターでボランティアによるバイオリン演奏会の開催や地域の敬老会などの招待で参加したり、協力し合っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じては、他のサービスを利用する機会を増やす形の支援も考えている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等でも地域包括支援センターと連携・相談を行い本人の意向や必要性に合わせて対応している		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が納得されたかかりつけ医による月2回の往診を行っている。また、体調の変化に柔軟に対応し、適切な医療が受けられるよう努めている		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しいかかりつけ医に常に連携を図り、毎日の生活で変化があれば、随時受診・相談を行っている		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医同様、利用者を熟知した看護職員が往診時同行しており、日々の体調の変化があれば随時相談している		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中も密にかかりつけ医や看護職員と連携を図り、情報共有し、早期退院に向けて努力している		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の在り方について本人や家族の希望を十分に聞き、医師の意見を取り入れながら最善の形を話し合っている		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が終末期に入られてもよりよい生活が送れるよう随時カンファレンスを行い、センターができることは最大限の支援に努めている		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人がよりよい生活を送れるよう、相談・助言・情報提供し、ダメージが最小限ですむよう努力している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を常に抱き、支援にあたっている。また、日々の生活の中で誇りやプライバシーが守られているか、常に職員間で話し合い、注意し合っている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意思決定を最重要視し、日々のケアにあたっている。自分の意思を表現しにくい利用者に対しては、細かなサインを見逃さないよう注意深く観察したり、本人の思いに立って考え、支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活をお手伝いするという基本精神を常に持ち、本人が穏やかに過ごせる環境を整える事に努力している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お好みの洋服を買いに行く際、職員が同行したり、身だしなみ用品の買い出しに行ったり、本人の希望やこれまでの生活歴に沿った支援を行っている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理や盛り付けを行うことで食事の準備段階から食に対して楽しみ・興味を持っていただき、個人の能力をうまく活かして準備・片付けができるよう支援している	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	常に個人のお好みの嗜好品に対応できるよう常備しており、嗜好品が日々の生活の楽しみの一つとなるよう努力している	

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	よりよい排泄が行えるよう常に職員間で話し合い・情報交換し、気持ちのよい排泄支援の模索に努めている。また随時カンファレンスを行い、職員間の共通認識として排泄方法の統一にも努めている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、午後～夕食前までの時間帯でお好きな時間に入浴を楽しんでいただいている。頻度は本人の希望を一番に考慮し、概ね二日に一度程度で行っている	○	夜、寝る前に入浴したいというニーズもあり、応えていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	24時間の流れを記録し、職員間で連携をとりながら、個人の生活習慣の把握に努め、空調管理や服装も配慮し、安眠確保に努めている。	○	就寝時、安眠効果のアロマを使用されている方もおり、これからも個別に合った支援をしていきたい
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃の利用者とのコミュニケーションの中から趣味、楽しみ事を見出し、その方の力が発揮できるよう支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はステーションで預かっており、本人の希望により時には外出して買い物に同行したりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外気浴、ドライブ、買い物など、本人の希望を聞いた職員が薦めたりしながら、積極的に戸外に出かける機会を設けている	○	お花見や紅葉狩り等季節ごとのドライブは大変楽しみされており、これからも継続していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に行きつけのお店に買い物にいたり、音楽に興味のある利用者たちで吹奏楽演奏会に観覧に行ったり、実施している		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話されたり、手紙の自由な交換を楽しまれている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的に面会時間は設けておらず、いつでも訪問・面会していただけるよう対応している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例の全体会議や日々の職員間の意見交換で身体拘束の禁止の重要性を理解し、話し合っており、実践しているが。著しく転倒の危険性が高い方において、安全を守る為、家族様に説明・理解いただいた上、やむをえず四点柵をさせていた利用人もいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	定例の全体会議や日々の職員間の意見交換で鍵をかけることの弊害は正しく理解しているが、安全面より、玄関についてはオートロックを行っている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常時利用者の所在を確認・意識しており、安全に配慮している。夜間は定時巡回を行っており、安否確認を徹底している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個別にカンファレンスを行い、その利用者にとって何が危険で何が危険でないか、話し合い見極めて個々に対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全体会議や研修に参加し、事故防止・リスクマネジメントを学んでおり、センターの個々の事故と照らし合わせ十分なカンファレンスをおこない、事故防止に努めている		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル作成・実践研修を行い緊急事態の対応を学んでいる。またマニュアルはステーション内でも一番良く見える場所に貼り付け、どんな時でも確認・実行できるようにしている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した消防訓練・避難訓練を定期的に行いとっさの災害に備えている	○	地域の人たちとももっと連携をとり、お互い協力し合える関係作りが必要
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクが想定された段階で家族と十分話し合い、説明・納得に努めている。またリスクばかりに目を向けるのではなく、その方らしい生活を守れるよう最大限に配慮するよう努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り、連絡ノート、介護支援記録等を使い、日々の変化を職員全員が把握できるよう努めている。全体会議や朝礼でも情報共有し、対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の薬の知識には多少の深淺はあるものの、目的・用法・用量・副作用は熟知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを24時間記録し、排便コントロールが必要なひとには注意を払い取り組んでいる。薬だけに頼る方法は極力避け、排泄を促す食事や適度な運動の奨励などで予防に努めている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自分で清潔保持が困難な方は、介助を行ったり、職員でも難しい場合は、往診に来ている歯医者に相談したり、医師に口腔掃除をしてもらっている		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分チェックを24時間記録し、一日の食事量や水分量の把握を行っている。個人で水分の確保が難しい人に対しては、職員がコントロールしたり、食事形態も個々に合わせた形態を提供している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成・実践研修などを行い、対応に備えている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の発生原因を正しく理解し、正しい衛生管理を学び、実践している。食材は週三回、新鮮な生鮮食品を配達してもらっている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にベンチや植木をおくなど、親しみやすい雰囲気となるよう工夫している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を飾ったり、利用者の手作り作品や季節の飾り物を配置するなど、家庭的な雰囲気作りに努め、落ち着いた空間になるよう工夫している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	図書コーナーを設けたり、リビングに食事の席とは別にソファをおいたり、工夫をしている		

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫 をしている	長年、親しみのある調度品を可能な限り、持参していただき、 居心地の良い空間で過ごしていただくよう努力している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	一日最低一回は窓やドアを開けて換気を行い、利用者の体 感温度を常に気にしながら、調整を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	手すりの設置や車椅子対応の便所、クッション性のある床な ど、利用者の安全に配慮した環境作りを提供している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個々の能力を見極め、出来ないことをお手伝いする姿勢を 根本によりよい生活の手助けを行う		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	センター内に自家用畑を所有しており、園芸や野菜栽培を 楽しめる場を設けている。玄関前に広いスペースもあり、 様々な季節の行事ごとを行っている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

嵯峨野ケアセンターそよ風(2階)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

各職員が利用者様の日々の体調や能力の変化に注意しながら、頻繁に意見交換を行い、ケアの方向性を話し合っています。